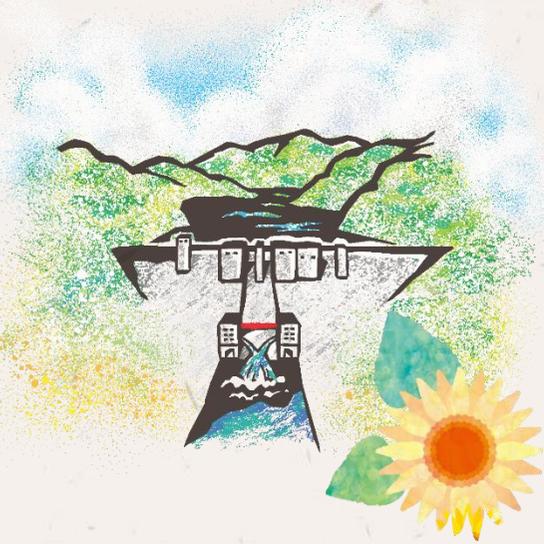


今月の一庫ダム



●雨量、貯水池状況、流況

7月の月雨量(ダム流域平均雨量)は233.6mmで、平年215.7mmに対し約108%の雨量でした。
一庫ダムの下流河川の状況は、利水基準地点虫生(むしゅう)へ11日間、約135万m³を補給しました。

8月30日現在、貯水率は約97.1%です。

Topics

一庫ダム

令和3・4年度 濁水の総括

一庫ダムがある猪名川流域では令和2年度から3年連続で濁水が発生しました。今年で見ると、令和4年2月5日～5月と7月に2回の取水制限を行っています。(右ページの年間貯水位曲線と表-1を参照)

取水制限はダムの貯水率が洪水期60%(非洪水期30%)を下回り、さらに貯水率の低下が懸念される場合に実施されます。

取水制限とは名前のとおり、川から取水する水量を一定の割合、制限するため(ダムからの放流量を少なくする)、ダムの貯水量を温存することになります。

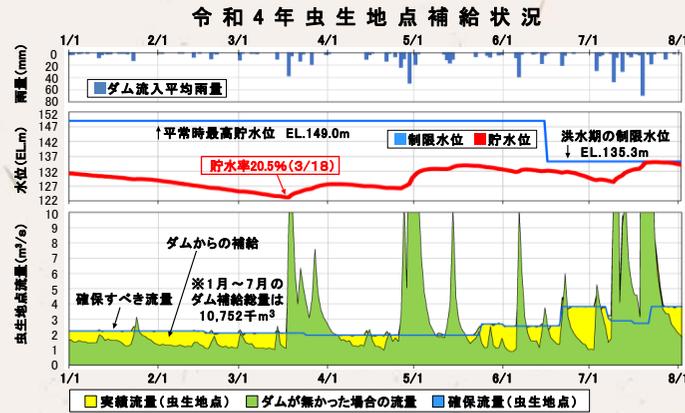
一庫ダムでは、取水制限が実施される前に、貯水量の低下が懸念された時点でダムに貯留されている水を少しでも大事に使いたいという思いから、水道事業者の皆様が自主節水(自主的に川から取水する水量を少なくすること)やダムからの放流量を少なくできることを実施して頂いたことで、ダム貯水量の温存を図り、取水制限が開始される時期を先延ばしすることができました。

近年の異常気象の影響で、雨が平年の3倍降った月のあとに平年の1/3しか降らないなど、気象の極端化も生じています。

貯水率の比較

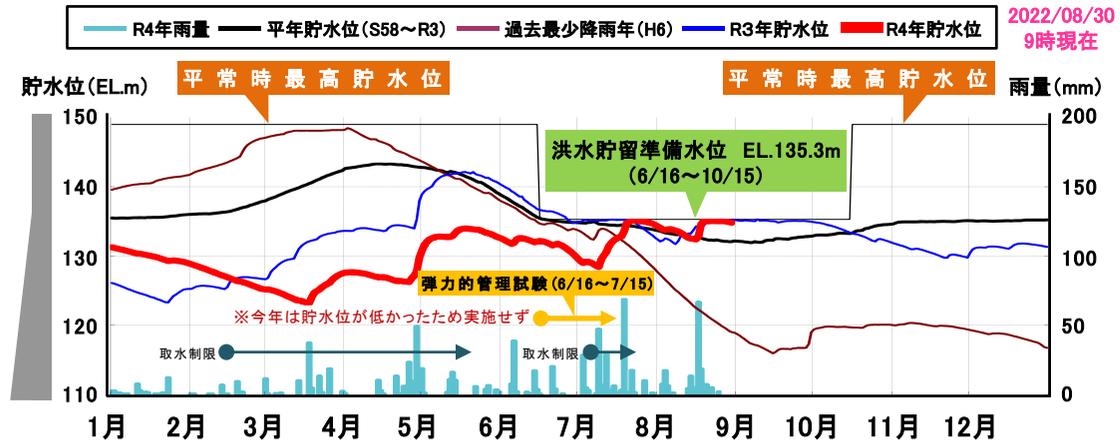


ダムに貯まっている水は、限りのある資源です。普段の生活においても、水を大切に使うことで、ぜひお願いいたします。

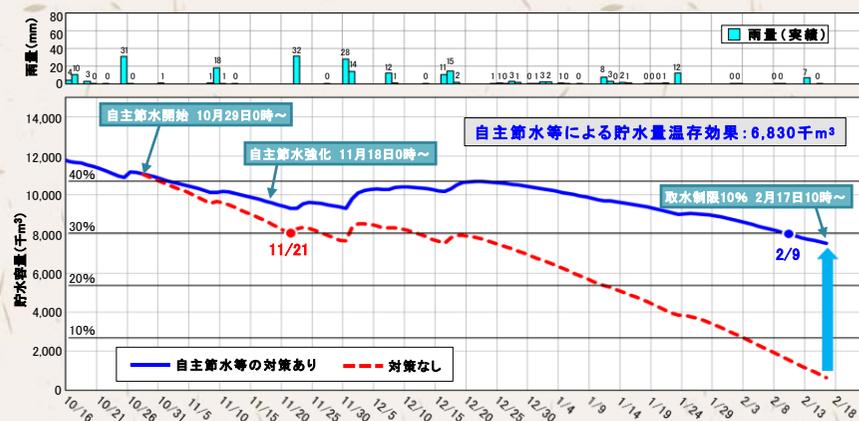


◆なぜ濁水になるの? 前述のとおり、ダムでは下流の皆さんが安定して水を使えるよう、必要な時に継続して補給(放流)しています。ダムに入ってくる水量以上の量を補給(放流)するとダムの貯水量は減っていきます。降雨により、ダムから放流する量以上の水量がダムに入ってくるとダムの貯水量は回復しません。ダムの貯水量が減っている時は、言い換えると、皆さんのためにダムが頑張っている状況と言えます。

一庫ダムの主な年間貯水位曲線と令和4年の日雨量



令和4年2月濁水における自主節水等によるダム貯水量温存の効果



何もしていなければ、R3.11.21頃には取水制限が開始されていましたが、自主節水等を実施することで6,830千m³のダム貯水量を温存できたため、取水制限の開始を約3か月(R4.2.17)先延ばしできました。

(表-1) R3・4年度 猪名川水系取水制限一覧

期間	日数	制限率		開始日	最低貯水位	一庫ダム		記録日
		上水	農水			最低貯水率	記録日	
R4.2.17 ~ R4.5.23	96日間	10%	20%	R4.2.17 ~ R4.3.23	123.07m	20.5% (41.4%)		R4.3.18
R4.7.7 ~ R4.7.21	15日間	20%		R4.7.7 ~	128.31m	63.2%		R4.7.9

令和4年2月からの濁水

令和4年2月17日から96日の取水制限(最大20%)となりました。これは一庫ダム管理39年間で4番目の長さになります。実は、この取水制限は、前年からの少雨が原因となっています。令和3年10月の降雨量は、平年の4割程度で、その後2か月は平年並みであったものの、そもそも降雨自体が少ない時期だったため、ダムの貯水量が減り続けました。この間、水道事業者の皆様が自主節水などにより、取水制限の開始時期を約3か月先延ばしすることができました。

令和4年7月の濁水

5月23日に取水制限が解除されましたが、その後、まとまった降雨が見込めず、貯水量の低下が懸念されたため、一週間後の6月1日から水道事業者の皆様による自主節水が開始されました。その後、6月14日に梅雨入りしましたが、わずか2週間後に梅雨明けという統計開始以降最も短い梅雨となりました。6月下旬からは田んぼなどで、下流で最も水を必要とする時期だったため、ダム貯水量の大きな低下が懸念されたこともあり、7月7日から取水制限が開始されました(通常は10%開始のところを20%から開始)。その後、幸いにもまとまった降雨によってダム貯水量が回復したため、15日後の7月21日に取水制限は解除されました。

貯水池の状況 (R4.08.15 撮影)
貯水位 EL. 132.47m
貯水率 84.0%



利水基準点 (虫生地点) の位置



ツイッターでも情報やお知らせをいち早く発信しています!

@jwa_hitokura



流木ペインティング大会を開催しました！

青空の下、小さな芸術家たちが大集合！
夏らしい天気にも恵まれた7月31日(日)、第16回流木ペインティング大会を開催しました。今年も酷暑対策として、会場を一庫ダム管理所に変更し、会場内はミストファンやスポットクーラーで涼をとりながら、また協賛企業のアサヒ飲料株式会社様よりご提供いただいた三ツ矢サイダー等で水分補給を行いながら実施しました。



「Tシャツと同じピンク色」

「カッコいい色合い！」

「安食先生に作品をみてもらってます」

9家族30名の参加者は、流木選びから色つけまで、自由な発想でそれぞれペインティングを行い、洋画家 安食慎太郎先生の制作指導をいただきながら、感性にあふれた素晴らしい作品を造り上げました。

できあがった色とりどりの作品を並べると、一庫ダムが真夏の素敵な美術館となりました。今回も、家族ごとにテントを分け、ソーシャルディスタンスを保つなど、コロナウイルス感染症対策を行った上で開催を行い、参加者の皆様にも検温やマスク・フェイスシールドの着用、手指消毒等、感染症対策にご協力いただきました。ありがとうございました。

魚とのふれあい体験♪

7月24日、8月7日、14日に知明湖キャンプ場において、猪名川漁業協同組合主催の「魚とのふれあい体験」が開催されました。

「魚とのふれあい体験」では、主催者からのアユの生態等の説明を聞いたあと、家族毎に分かれてアユのつかみどりを体験。子供たちは、はじめはすばしっこく逃げまわするアユに悪戦苦闘。しかし、徐々にコツをつかみ、最後は参加した子供たちの殆どがアユを捕まえることができました。



「アユの塩焼きおいしそう♪」

捕まえたアユは、炭火で塩焼きにして参加者全員で食べました。炭火焼きにしたアユの味も格別のように、子供たちも、美味しいと満面の笑顔でした。また、アユを食べた後には、知明湖キャンプ場内の河川の清掃活動を実施。参加者の皆様には、アユの住む「猪名川」「知明湖」に親しんでいただきました。

一庫ダムの今昔物語

一庫ダムができるまでの歴史や様子を過去の記事でも紹介しています！

一庫ダムが建設された猪名川は、淀川から枝分かれしている神崎川に流れ込む河川で、淀川水系に属しています。この猪名川の下流域には尼崎市、伊丹市、豊中市、中流地域には川西市、宝塚市、池田市、箕面市があります。この地域は戦後の経済成長と人口急増により、水不足が深刻な問題となってきました。また、猪名川は昭和13年、昭和28年の大洪水により沿岸の人たちは大きな被害をこうむってきました。

このため洪水調節機能をもったダムをつくり、猪名川の河道改修と一体となって洪水の被害を軽減し、併せて渇水時には農業用水、上水道用水としてダムから水を補給するとともに、新たに50〜60万人分の都市用水を生み出す多目的ダムの建設が計画されました。こうして地元住民、及び関係機関の皆様からの深いご理解と32世帯の移転等についてのご協力をいただき、一庫ダムは16年の歳月と約638億円の建設費を投じて1983(昭和58)年度に完成しました。



1 水没者移転
ダムが出来ると家屋が水没してしまう方々には、別の場所(代替地)への移転にご協力いただく

2 代替道路
ダムが出来ると沈んでしまう道路の代わりに水没しない新しい道路をつくる

3 掘削
もともとある山を削り深い場所にある固い岩盤まで掘削する

4 転流
ダム本体をつくる場所に流れている川をトンネルで迂回させる



1 本体工事の様子

2 本体工事
ダム本体となるコンクリートを打設する

3 掘削
もともとある山を削り深い場所にある固い岩盤まで掘削する

4 竣工
昭和58年5月、クレストゲートより試験放流

FM いたみ取材！

7月20日(水)に、エフエムいたみで毎週水曜日17時15分から放送されている「備えて安心！上村悠の防災ラジオ」の取材を受けました。

始めに、説明ホールにて防災施設としての一庫ダムの役割や伊丹市との関わりなどをインタビュ形式で収録した後、パーソナリティの上村さんにダム内部を歩きながら、地震計、常用洪水吐ゲート、非常用洪水吐ゲート、利水放流管などをリポートしていただきました。

当初は1回のみの放送予定でしたが、ダムの内容がため、7月27日(水)、8月3日(水)と2回に分けて放送していただきました。伊丹市と周辺地域の皆様に、一庫ダムを紹介していただくよい機会となりました。



ON AIR

水循環と防災展

「水循環と防災展」(池田市上下水道部主催)が8月1日から8月12日まで池田中央公民館にて行われ、一庫ダムも参加しました。

一庫ダムの役割や管理所の仕事などについてのパネル展示や、直接職員が説明を行う「水循環と防災展ツアー」も開催されました。当日は小学生の参加者等が説明を熱心に聞き入り、一庫ダムについて理解を深めていただきました。

参加者には、一庫ダム堤体が作れるパークラフトキットやYouTube「パークラフトダム見学ツアー」「ダムミッションシリーズ」の案内チラシ、防災時の啓発チラシ等、自宅でも一庫ダムを知り、楽しむことが出来るよう、配布を行いました。



一庫ダムのパークラフトはこちらのQRコードのあるページからダウンロードしてね。

優良工事等表彰式

一庫ダムは、工事会社やコンサルタントなど多くの業界関係者の皆様に支えられています。このたび令和3年度に完成した工事・業務のうち、その成果が特に優秀な者を表彰する優良工事等表彰式を執り行いました。



【受賞受注者】株式会社建設技術研究所 大阪本社 殿
【受賞技術者】坂井 広正 殿 (管理技術者)

慰霊碑清掃

一庫ダム左岸にはダム建設時に殉職された方の慰霊碑と展望広場があります。今年もお盆を迎える前に、慰霊碑と展望台の清掃を行いました。清掃後には献花、焼香、黙祷し、一庫ダムが管理開始以降、治水・利水の役割を果たし続けていることを報告するとともに、これからの無事故無災害を誓いました。



2022.8.9 慰霊碑清掃



2022.8.10 参拝

不思議な植物「マタタビ」

一庫ダム周辺に自生する植物にマタタビがあります。夏に虫食い果と呼ばれる実があり、通常のマタタビの実にハエやアブラムシなどの昆虫が卵を産みつけて形が変形したものです。通常の実は、楕円形のつるつるとした表面となっていますが、虫食い果はポコポコした表面をしているのが特徴で「虫こぶ」ともいわれます。

一説には「長旅に疲れたときにこの実を食べたら元気が出て、再び旅を続けることが出来るようになった」ことから「復(また)旅」と名づけられたとか？



通常の実

虫食い果(虫こぶ)

一庫ダムができるまでの地域の歴史や様子を過去の記事でも紹介しています！

- 1 川西市歴史民俗資料館
- 2 龍化隧道
- 3 里山環境との共生
- 4 骨材プラント跡地

※番号の写真に関連する記事をスマホやタブレットでお読みいただけます。

独立行政法人 水資源機構
一庫ダム管理所
〒666-0153
兵庫県川西市一庫字唐松4番地の1
TEL:072-794-6671
FAX:072-794-1908

一庫ダムHP